



いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、どうすればいいのでしょうか？

趣味や特技を活かした活動やつどいの場を充実させて、笑顔があふれる地域、お互いさまの思いやりと支えあいの仕組みを地域の皆さんと一緒に考えていきます!!

大和郡山市社会福祉協議会では、「地域の課題解決力を育む地区社協づくり」を目指して、地区社協と協働で、課題解決サイクル「地区社協 大和郡山モデル」の構築に向けて取り組んでいます。

- ①住民同士がつながりをもち、生活・福祉課題に気づく (発見する)
- ②住民参加による生活・福祉課題を共有、解決する
- ③生活・福祉課題を共有し、新たな活動を生み出す

### 【地区社協 大和郡山モデル】



## 治道まつり 4年ぶりに開催



新型コロナウイルス感染症の影響により長らく開催が中止されていた「治道まつり」が4年ぶりに開催されました。今回で34回目を迎え、住民同士の顔の見える関係づくりと、子どもから高齢者世代間交流を目的として開催されています。

当日は晴天に恵まれ、子どもから高齢者まで様々な競技にチャレンジし、アットホームな雰囲気の中、地域のつながりを深める機会となりました。

地域の行事や活動が大切だと思っているものの、少子高齢化・人口減少や担い手不足などの課題が挙がっています。治道地区は市内でも特に高齢化率が45.89%(R5.11.30 現在)と高く、課題は顕著になっています。

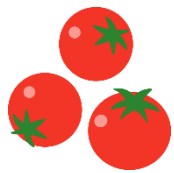
治道地区社協では、まつり・地域行事を継続するため、様々な住民さんが少しずつでも参画していただけるよう検討を続けています。無理はせず「お互いさま」の気持ちを持って、日頃から地域のネットワークを築き、「地域の人とのお付き合い」を大切にしましょう。



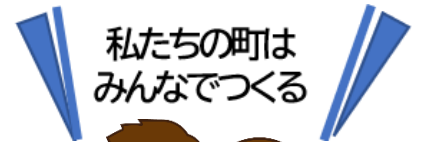
模擬店や裏方スタッフとして、地域団体の皆様に運営されています



全員参加の宝運びレース



# はるみち・わかもの会議



治道地区社協では、令和3年11月に20～40歳代を対象に「はるみちミーティング」を開催し、地域の課題点や課題解決に向けたアイデアなどの意見交換を行いました。ミーティングでは「話し合ったことを実際に“カタチ”にしないと意味がない」といった声もあり、令和4年4月より、有志のメンバーが集まって治道地区を盛り上げるために地域で何ができるかを話し合う「はるみち・わかもの会議」を開催しています。



治道地区は「スーパーもない、駅もない、人口も少ない」とないものばかりが目につきますが、「ないもの」に目を向けるのではなく、治道の魅力・素敵などところを発信し、治道ファンを増やすことから、治道地区の活性化(できれば治道地区の人口を増やしたい)につなげたいと考えています。

まずは、ひとりでも多くの人に集まってもらって、ひとりでも多くの治道ファンを増やすため、令和6年4月21日に開催する「ポツンとフェス治道」に向けて準備中です。

地域の様々な人にご協力いただき、一緒に実行委員として活動したい！当日だけでもボランティアとして参加したい！など、協力者も募集していますので、関心のある方はぜひご参加をお願いします。



## ポツンとフェス治道

【日時】 令和6年4月21日(日)11時～16時

【場所】 治道小学校

【内容】 ・ステージイベント

・キッチンカー、飲食ブース

・物販・体験ブース

・地元野菜の販売 など



インスタグラムを開設し、情報発信しています。フォローをお願いします。



HARUMICHI\_POTUN

## 【地区社協ってなに？】

市内には8つの地区社会福祉協議会(略して地区社協)があり、地域住民をはじめ、自治会、民生・児童委員、老人会、PTAなど、各種団体やボランティアらが主体となって、住民一人ひとりの生活・福祉課題を地域の課題として受けとめ、「誰もが安心して暮らすことのできるまちづくり」を推進する住民組織です。住民相互の支えあい活動を広げるため、講演会や世代間交流事業を開催したり、高齢者の見守り活動や健康づくりなどに取り組んだりしています。

高齢化が進むなか、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民同士のつながりや見守り、支えあいの仕組みが必要となります。

生活支援体制整備事業では、地域の皆様とともに身近な地域での支え合いの地域づくりを進めます。(大和郡山市委託事業)

【問合せ】大和郡山市社会福祉協議会 福祉課  
大和郡山市植槻町3-8社会福祉会館内  
電話 53-6531/FAX 55-0986